

「この最も小さな者の一人にしたのは、すなわち私にした」(全国キリスト教障がい者団体協議会)

2025年7月7-8日

ANAクラウンプラザホテル神戸 ラベンダーホール

超教派ブレザレン教会 神戸国際キリスト教会

牧 師 岩村義雄

主題聖句: 「そこで、王は答える。『よく言っておく。この最も小さな者の一人にしたのは、すなわち、私にしたのである』」(マタイの福音書 25章40節『聖書協会共同訳』2018年版)。

<序>

海外ボランティアは「小さくされた人々」、貧者、マイノリティー(少数者)に仕える地味な働きです。国、公的機関や大企業(資本金10億円以上)から献金¹もいただかず辺境地にも渡河します。とりわけ「頼りなく、望みなく、心細い人」、蒼氓²の人々の低みに寄り添います。とは言っても、行政による支援から漏れている被災者を迅速にケアすることはできません。1万8,500人以上の死者・行方不明者の2011年の東日本大震災と比較して、為す術のなさの無力感を常に味わってきました。1990年代から「自助」、「共助」、「公助」というフレーズが言われるようになりました³。行政による「公助」はもちろん大切です。しかし、能登半島地震後の限界も見てきました。災害に備えるには、自分の身は自分で守るという「自助」、地域の助け合いなどの「共助」が欠かせません。実際にはもっとも大切なのは「家助」⁴でした。京都大学防災研究所巨大災害研究センターの矢守克也教授は、「自助」、「共助」、「公助」は「防災帰責実践」⁵に相当した故に、ご破算にすべきと提言しておられます。神戸国際支縁機構の新免貢⁶理事は、「良きことはカタツムリ⁷の速さで進む」とマハトマ・ガンディー[1869-1948]⁸を引用されました。つまり蒼氓の民に共生するには時間がかかるのです。

発災直後には、炊き出し、がれき撤去、ドロ出し、畳替えが必要かどうかを判断します。数多くの人が求められる場合、行動を共にするメンバーたちから行動予定が打診されます。復興ならば、重機が有用です。損壊家屋の復旧にはマンパワーを繰り出すことが求められるからです。

海外の被災現場は2016年に「カヨ子基金」が発足して以降、神戸国際支縁機構の国際部として現地に赴いてきました。2025年3月28日、ミャンマーとタイでの地震災害の報を耳にしました。2カ国に向かう安価な航空券を予約しました。牧師だから優先せねばならない教会のミニストリーがあります。30日(日)、神戸国際キリスト教会の礼拝の務めを終えてから出発です。救援金、浄水用錠剤、必須医薬品の備え、他団体との協調などを備えました。

¹季刊誌『支縁』の協賛年額広告費3万円は印刷代に充当。

²「氓」は民、移住民の意。invisible people。「蒼氓」は、第1回芥川賞を受賞した『蒼氓』(石川達三 改造社 1935年)で知られている。ボランティアが向かう蒼氓は定住地がないままさすらうサンカのような流民である。「群がり、萌え出る雑草の如き一切の人々」『親鸞』(野間宏 岩波新書 1976年 36頁)。

³『避難学「逃げる」ための人間科学』(矢守克也 東京大学出版会 2024年 151頁)。

⁴拙論「宗教はコロナウイルス後の社会をどう目指すか」—第1章(WCRP平和大学 2022年 15-17頁)。

⁵『避難学「逃げる」ための人間科学』(同 174-176頁)。政府や関係官庁に責任の明確化と住民主体の防災体制を求める。

⁶第17回神戸国際支縁機構聖書セミナー(新免 貢 神戸学生青年センター 2025年2月21日 20頁)。

⁷拙論「田・山・湾の復活」—宗教倫理学会夏季一泊研修会—(関西大学飛鳥文化研究所 2013年8月27日 9頁)。

⁸『真の独立への道』—ヒンド・スマラージ(M.K.ガーンディ 岩波文庫 2001年 60-61頁)。“人間は自分の手足ができる範囲内だけ、行き来しなければないように生み出されている。……もし私たちが鉄道などの手段で奔走しなければ、たくさんの込み入った問題はない。……人間は鉄道を利用し神を忘れてしまったのです”拙論「宗教はコロナウイルス後の社会をどう目指すか」—第1章(同 11頁)。

「カヨ子基金」の代表佐々木美和は、教会の村上裕隆兄、野田健二兄と共に西宮の有田貞一先生からヘブライ語を学んだあと、関西空港まで送り出されました。私はリムジンバスで三宮から向かい、関西空港で合流しました。日本を出発し、ミャンマーの巨大地震(マグニチュード 7.7)の震源地⁹ザカインから 1000 キロ離れた隣国のタイ国首都バンコクに向かいました。30 日夜、バンコクの飛行場のベンチで仮眠。翌朝、31 日午前 7 時半に市内のチャトウチャック Chatuchak を訪問。33 階建ての高層ビルが倒壊し、現場にバンコクの(Chadchart Sittipunt 59 歳)知事の視察に遭遇(画像参照)。被害者の数などを尋ねる機会もありました。死者 11 名、不明 1 名、負傷者 76 名。現場から 45 分地下鉄を利用してバング・ホーに向かい、そこでも倒壊したクレーンによって一人が犠牲になって騒然としていました。33 年前に亡きカヨ子と私たち夫婦が金徳化牧師と見たタイの最底辺の生活¹⁰はなくなり、近代化していました。スワンナプール空港から、その夜午後 10 時に、100 歳になる仏教のウーティザ老師たちとミャンマーに入国しました。マンダレー、ザカイン空港は地震で閉鎖されていました。急遽、ミャンマー人のテアさんの協力で、4 月 1 日の朝、被災のネピドーなどを経由して、車で約 10 時間の移動になりました。震源地ザカインでは橋が崩落したり、住民の家屋も損壊しています。ビルマ語もできない、通貨も 4 月 1 日、どの銀行も ATM が停止のためクレジット、現金もありません。いきなり路頭にさまようボランティアで幕が開けました。

目 次

(1) 難民支縁	
a. ミャンマー	3
b. 難民に伴走した働きに萌芽	3
c. 差別と戦うボランティア	4
(2) マンダレーの粉碎	
a. シングルマザーの呻き	5
b. 若者たちが立ち上がる	6
c. 「カヨコ・チルドレン・ホーム」をどこに建てるか	7
(3) 孤児を見捨てない	
a. 孤児を捜し求めて 3 千里	8
b. 抑圧されている人々と共生する	10
c. 廃墟の破れ口から立ち直る	13

タイにおける踪跡

← 建設中 33 階建てビル倒壊 2025 年 3 月 31 日



『クリスチャントゥデイ』
(2020 年 4 月 17 日)。

チャチャート・シティパン・バンコク都知事

クレーン倒壊一人死亡 バング・ホー

⁹ 西村卓也・京都大防災研究所地震災害研究センター教授(測地学)によると、ザガイン断層 『毎日新聞』(2025 年 3 月 29 日付)。日本人 1 人を含む 3700 人以上が死亡。5100 人以上が負傷。

¹⁰ 『タイ最底辺 ほんの昨日の日本』(伊藤章治 効草書房 1989 年 74-82 頁)。

(1) 難民支縁

a. ミャンマー難民

2001年10月7日、米国ニューヨーク市の同時多発テロが発生しました。米国は報復として、「対テロ戦争」という名目でアフガニスタンに空爆を開始。当初、攻撃目標は軍事目標に限定していると発表されていました。しかし、誤爆などで住宅や民間施設も被害にありました。その結果、多くの人命が失われました。戦争から逃れるために多くの難民が発生することになりました。難民問題¹¹がボランティア活動の起点となりました。

聖書は、「寄留者」(ヘブライ語 **ゲル ger**, ギリシア語 **πάροικος** パロイコス *paroikos*)についてもないがしろにしないように一貫して言及しています¹²。「解放の神学」¹³では、「寄留者」を「難民」と置き換えて、理解しています。「この人たち皆、信仰を抱いて死にました。約束のものは手にしませんでしたが、はるかにそれを見て喜びの声を上げ、自分たちが地上ではよそ者パロイコスであり、滞在者 **παρεπιδημος** *parepidemous*(パレピデイモス)であることを告白したのです」(ヘブライ 11:13)。「愛する人たち、あなたがたに勧めます。あなたがたはこの世では寄留者(パロイコス)であり、滞在者(パレピデイモス)なのですから、魂に戦いを挑む肉の欲を避けなさい」(Iペトロ 2:11)。したがって、限界集落の人々、抑圧された人々、被災のトラウマをもつフィールドにかけつけるボランティアも「寄留者」です。そのような寄留者との出会いは茨木市の西日本入国管理センターでした。ミャンマ一人マウンマウンさん(57歳 1968年2月14日生)と出会いました。法務局へ難民申請が受理されるように粘り強く働きました。その結果、認められました¹⁴。

b. 難民に伴走した働きに萌芽

神戸国際支縁機構は2001年の設立当初から政治団体、利益団体、職業団体も目指しておりません。他者のために生き、共に苦しみ、悲しみを入れる器、共に分から合うようにと心がけております。日本は国際的に難民を受け入れることを明言しています。自国で政治的、思想的な立場が認められず、身に危険が及ぶために、日本に安全を求めて、国を棄て脱出されました。しかし、日本は、難民申請をほとんど受理しません。法務省の収容センターにすぐに収監してしまいます。人権、自由が奪われています。強制送還をすると、本国で肅正の可能性があってもおかまいなしに、送り返します。国連が認めている難民申請者でも日本は入国拒否します。大阪府茨木市にあった西日本入国管理センター¹⁵へ面会訪問を始めました。収容施設は刑務所よりひどい環境でした。入管が同じニンゲンに人権侵害を行う実態を知るようになりました。日本の一般人は入管内のことについて、無知、無関心、メディアも文明国が行っている前近代的な事実を報道することはありませんでした。法務省入国管理局によると、2009年以降に収容中に死亡した人は13人。うち自殺者は5人いました。露見をおそれてか10年以上面会を続けてきたセンターも2015年9月に閉鎖。長崎県の大村入管に移送されました¹⁶。大学卒業後、入国管理局に勤務した後、埼玉弁護士会で

¹¹ 2021年6月18日、UNHCRは6月20日の「世界難民の日」に向けて2020年の世界の難民数を発表した。昨年、紛争、迫害、暴力、人権侵害などにより故郷を追われた人の数は、コロナ禍にも関わらず、8,240万人近くにまで増加。2019年の7,950万人より4%、290万人増である。庇護申請中で結果を待つ庇護希望者は世界全体で2019年とほぼ横ばい(410万人)。一方、庇護申請の登録数約130万人は2019年から43%、100万人減。年間統計報告書「グローバル・トレンド・レポート」。

¹² 『セプトゥアギンタ訳』LXXの出エジプト記 22章20節では、プロセラルトス<改宗者の意 語源はプロセルコマイ「よそからここへやって来た」>であり、ユダヤ人ではなかったが、割礼を受け、ユダヤ教徒になった者について述べている。英語 *proselyte*「改宗者」の原義。拙論「キリスト教と難民」(神戸国際キリスト教会 2021年3-4頁)。

¹³ 拙論『解放の神学とは何か』(神戸国際キリスト教会 2021年5月2日)。

¹⁴ 2005年、マウンマウンさんが大阪高裁で勝訴、難民認定を得られた。空野佳弘弁護士報告(6/26世界難民の日関西集会)。

¹⁵ 大阪出入国在留管理局は現在大阪市住之江区南港北、コスモスクエアにある。コロナ禍以降、30人~50人。

¹⁶ 入管収容者がハンストで半減、死亡例受け仮放免増加、派出所後も困窮。『西日本新聞』(2020年4月6日付)。拙論「あなたはいつも抑圧された人に寄り添うのをあきらめたのか」(神戸新聞会館 聖書のことばシリーズ 第86回 2021年3月)。

「外国人人権センター運営委員会」などで、外国人救済の会の委員長をつとめた渡邊祐樹さんは証言なさいました。「刑務所の様な鉄格子の収容施設の中に色々な国の人人が何人かいました。それを見たときによくもショックを受けて、映画『猿の惑星』の場面を私は思い出しました。そう言うと、みんな勘違いして『外国人を猿に例えるなんて、人権感覚どうなってるんだ』と言われるのですが、猿の惑星で収容されていたのは人間の方で、猿が収容しているんですよ。入管でも、多国籍の人間が収容されていて、母国語で話しかけてくるけど入管側には通じない。それを見て『猿の惑星』と一緒に、そのうちに感覚が鈍ってきて、自分たちは彼らを支配してるんだと考えるようになってしまいかねないと感じました」、と¹⁷。

c. 差別と戦うボランティア

入管で収容されている難民申請者は、身体のコンディションを崩すこともあります。外の病院に行くとき、手錠され、縄でつながれます。「病院に行くときは手錠をされた上、犬みたいに腰に縄をつけられます」、と訴えておられます。3回難民申請が法務省によって認められなくなったら、母国に強制送還されます¹⁸。自分の国に帰還したら、肅清が待っています。日本への入国目的はなんでしたか。密入国ですか、移民ですか、そうではありません。庇護を求めて難民としてやってこられたのです。

キリスト教に改宗した経歴、反政府運動に加わった、マフィアから命を狙われているなどの理由です。

日本は難民条約の加盟国であるにもかかわらず、難民の認定率は1%にも達しておりません。2019年難民認定申請者10,375人に対して、認定された人は44人(0.4%)。2020年はコロナ禍の影響で3,936人と庇護申請者は大幅に減りました。認定された人は47人(1.2%)。条約批准国148カ国中110位であり、条約批准国の責務を軽んじています。長期収容、長期仮放免、強制帰国は人権蹂躪です。たとえば、難民認定申請を同じ理由で3回以上繰り返した場合、強制送還にする日本政府に対して、UNHCR¹⁹は「非常に重大な懸念」を表明してきました。しかし、難民認定率²⁰の低さが際立っている問題は一向に解決されていません。2021年3月6日、名古屋出入国在留管理局(名古屋入管)の収容施設でスリランカ人のウイシュマ・サンダマリさん(33歳)が亡くなりました。難民申請をしても「不認定」になる事態を放置してはいけません。法務省の統計によると、日本が難民認定制度の運用を始めてから2012年までの31年間で、計616人が難民として認定されています。そのうち322人、つまり日本がこれまで認定してきた難民の過半数がミャンマー人です。つまり劣悪な入管センターに収容される外国人の中でミャンマー人が一番多いのです。

日本国内での人道的な難民支援の働きは、海外の被災者に目が向けられました。バヌアツ国の貧民のブラックサンド地域の孤児たち、ネパールのダリット層の孤児たち、ベトナム水害の孤児たちへ広がっています。

ボランティアの働きの中で試練に何度も直面してきました。それは、渡航費などの経済的な問題ではありません。マイノリティー(少数者)、とりわけ少数宗教者への異端視迫害、ジェノサイド[集団

¹⁷『西日本新聞』(2023年6月9日付)。

¹⁸「17人を強制送還」『朝日新聞』(2025年3月14日付)。

¹⁹ UNHCR(ユーニエイチシー・アール)は、国連難民高等弁務官事務所(United Nations High Commissioner for Refugees)の略称。1950年に設立された国連機関の一つの見解(出入国管理及び難民認定法の一部を改正する法律案[第204回国会提出]。2021年4月9日付け)。

²⁰ たとえば、2023年の各国のシリア難民の認定率は次の通り:ドイツ14%, アメリカ82%, オーストラリア85%。日本は入管庁資料によると、認定1人、人道配慮17人(難民申請数、不認定数は不明)。在日ビルマ難民申請弁護団、「声明」、2010年10月29日。2023年の日本の認定率の出し方:認定数303人、不認定数7,627人。 $303 \div (303 + 7,627) = 約3.8\%$ 。その年の認定数 ÷ (同年の認定数+不認定数) その年の認定数 ÷ (同年の認定数+不認定数)により算出。

殺害]問題です。国内にもアイヌ、琉球、被差別部落という不可避の深刻なハードルがあります。ミャンマーだけに焦点があたっているとお考えでしょう。歴史、権力、宗教帝国の構造への斬り込みなしに本質的な解決がないと現場で痛感してきました。だからといって、暴力、武器、政治力支配へと邁進するのはキリストの教えからは遊離しています。「その剣を鋤に その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず もはや戦いを学ぶことはない」(ミカ 4:3)。ミクロの視点からマクロへと地球に生存する共通の生きとし生ける物の課題をご一緒に考えたいと思っています。

(2) マンダレーの粉碎

a. シングルマザーのうめき声

4月1日午後10時、ミャンマーの最大の被災現場であるマンダレー(Mandalay マンダレー: ヤンゴンに次ぐ第2の都市人口約150万人)に入りました。マンダレーは、旧王宮の施設があり、観光地です。最初に足を踏み入れたポウオー・ヘルス・クリニック Bone Ohe Health Clinic も野戦病院と化していました。病床数が不足し、道路脇に荷物用車を寝台代わりに用いていました。



Bone Ohe Health Clinic 2025年4月1日
午後10時 岩村義雄撮影
『中外日報』(2025年4月11日)。
『毎日新聞』(2025年4月17日)。

病院から救急車がポウオー村の広場に案内してくれました。電灯もなく、真っ暗にもかかわらず、トラウマで夜眠られない人々は、日本からの私たちに何やら訴えようとされて集まってこられました。およそ200名です。「最も小さな人々」²¹です。野外で4泊目を過ごしておられました。

夫を地震で失い、3人の子どもをどう育てるか行く末に不安を抱えている母親もおられました。



ニン・イー・ウインさん(35歳)と、その子どもたち ヤティさん(13歳)、テュンさん(1歳)、ナディさん(8歳)。

²¹ 「この最も小さな者の一人にしたのは、すなわち、私にした」(τῶν ἀδελφῶν μου τῶν ἐλαχίστων(トーン アデルフォーン ムー トーン エラキストーン tōn adelphōn mou tōn elachistōn)。語源的には古語エラコスの最上級、実際にはミクロス michrōs の最上級として用いている。

地震は2025年3月28日(金曜日)の午後12時50分頃(日本時間午後3時20分頃)に発生しました。その時間帯はポウオ一村の多くの人がモスク(マスジド)で祈りを捧げていました。そのため、祈りを捧げていた多くの人がモスクの倒壊によって亡くなりました。同時に、市街地の多くの大きな建物が崩壊しました。多くの人の間に死傷者が出ました。家屋、家族、田畠に被害を出した若者たちが深夜、広場に集まってきた。ポウオ一村はマンダレー州ア马拉プラ郡区にあります。有名なウー・ペイン橋²²の近くです。建設業者のウー・ペイン氏の生まれ故郷でもあります。ミャンマーでは名前に姓と名の二つがありません。ひとつです。日本²³の江戸時代の庶民と似ています。「ウー」は敬称で、ミスターMr.の意です。ポウオ一村は、最大の被災現場でした。その夜は村の人口が1万人と聞きましたが、ケルビン・ラインさん(22歳)は28,400人とも言われました。村の死者は139名でした。深夜過ぎているにもかかわらず、次から次へ、ビルマ語で体験を語られました。治療費、生活費、金銭を無心する人たちがひとりも現れなかつたのには驚きました。素朴な民族性、宗教心が一挙手一投足に表れています。ポウオ一村のボランティアの最高責任者であり、弟のニーさんを被災で失ったウーラーアンさん(U Hlaaung 43歳)は、遠い日本から来たにもかかわらず、もてなすことができない非礼を率直に語られました。そんな心根に励されました。他にも、ミンタイマーさん(20歳)、トゥーリザさん(20歳)、ニューニーラインさん(20歳)なども英語ができるばかりか深刻なふる里の危機をどう乗り越えるか真剣でした。夜明け前まで加わっていました。地震の発災から不眠不休が続いていたのでしょうか。鶏の鳴き声、アザーンの祈りの時には、岩村だけが一睡もせずに起きていました。

b. 若者たちが立ち上がる

あたりが明るくなつくると、仮眠をとった若者たちが集まってきた。積極的に村の復旧、復興、再建をどうするか意欲がある面々です。昨夜は暗くて識別できませんでしたが、村の被害がおびただしいことが手に取るようにわかりました。単身で被災地に赴いたバスアツ、ネパール、ガーナでも現地の若者たちの協力が被災者ケアに重要な働きにつながってきました。にわかに復興グループができました。村の損壊状況の調査、報告、方針についての意見を交わしました。まず礼拝のモスク、学校、病院、そして最後に自分たちの家を復旧するという声があがりました。



左からミンタイマーさん(20歳)、ニュー・ニーラインさん(20歳)、佐々木美和、トゥー・リザさん(20歳)、岩村義雄、トゥーモウスエさん(27歳)



Ah Lal Ba le モスク(マスジド)脇 2025.3.29.

²² ウー・ペイン橋(U Bein Bridge) タウンタマン湖に架かる全長約1.2kmの木造橋。世界最長のチーク材の橋。19世紀半ばに建設され、現在も多くの人々が利用している。特に夕暮れ時の美しい景観を見に有名な観光スポットです。

²³ 日本も江戸時代までは、名字を使えるのは武士など限られた身分の人だけだった。明治時代になり、政府が国民を把握して税金を集めたり、軍に徴兵したりするために、一般の人にも名字を使うことを義務付けた。『東京新聞』(2022年6月3日付)。

ポウオーは半数近くは稻作農家です。稻作は日本でも農業機械を用いる前には牛と共同作業で進められました。ミャンマーも水牛で耕します。農は主要な生業です。コメ以外に、野菜、トウモロコシ、豆類、などの栽培も行われています。

隣国のタイやインドネシアなどと同様に、こうじょうかおく杭上住居²⁴や高床住居²⁵と呼ばれる家屋に住んでおられます。床下を畜舎として利用しておられます。人力と畜力に頼った昔ながらの農業です²⁶。



c.「カヨコ・チルドレン・ホーム」をどこに建てるか

高い床、藁葺きの屋根、家畜も家族です。トラクターなど用いないアジア特有の人間の手でコメを育てています。無農薬、有機、除草剤なしだから安全です。肥料は牛糞だからお米はおいしいです。牛、山羊、鶏、ガチョウ、アヒルなども、被災住民が牧草地に毛布などを持って来て、避難生活者も牛などと共に生活をされていました。

即席の新しいボランティアの群れができてきました。おそらく朝食も食べずに集まってきたとしか思えません。「はだしのアンクル」と呼んでくださったりしました。寸断された道路、木つ端微塵に崩れたモスク、原形をとどめていない家などを一緒に訪問しました(画像参照)。帰途には、鶏、ガチョウの卵をプレゼントにと持って来てくださいました。

気温は40度を超えていましたが、地震の被害のすさまじさに背筋が冷たく、暑さを感じませんでした。電気もありません。水は井戸水を用いています。ウッケマン村長(51歳)から、孤児のために「カヨコ・チルドレン・ホーム」を二回目の訪問でも期待されました。被災した遺族たちはこれから生きていくことに不安があります。



村で被災した子どもたちに囲まれる
佐々木美和。4月2日。
『クリスチャン新聞』(2025年4月3日)
掲載。

²⁴ 建物が地上から離れて柱の上に載っている住居。

²⁵ 高温多湿の気候にあって、通気性が良い。住宅の水害、肉食獣から防ぐ。傾斜地、凸凹の地、水上にも建てることが可能。収穫物の保存性に功を奏している。日本でも豪雪地帯は1階を車の駐車場にして、車庫の雪かきの手間がかからない理由に用いられている。一方、高齢者やハンディキャップでの人にとり負担になる。

²⁶ 『ナショナル ジオグラフィック』(2021年1月16日)。

(3) 孤児を見捨てない

a.孤児を捜し求める—『神戸新聞』(2025年4月15日)。

2025年の幕開けは、古代文明の発祥地であるメソポタミア²⁷にいました。シリアのアレッポです。2023年2月6日の地震で被災したシリア第2の都市アレッポを同年8月に訪問²⁸。その後、バッシャール・ハーフィズ・アル=アサド[1965-]政権の崩壊後の2024年12月に孤児支援のために、中東にいました。アレッポは現地では、ハラブ(アラビア語 حَلَبْ へブライ語 הַלָּבֶן (halab)と言います。ミルクの意味です。「乳と蜜の流れる地」とは、「乳」は乳牛、ヤギなどが牧草地におり、「蜜」はぶどうなどや花の豊かさを比喩的に描写しています。豊かに食し、生活に困窮することのない平和と恵みが満ちています。実際、戦争、紛争、テロに明け暮れたアレッポの街並みは、昨年12月、新年を迎える前日に、浄化されたのでしょうか。私たちの植樹ボランティア、少し手を加えただけで理想郷が取り戻された観がありました。「あなたが私たちの先祖に誓われたとおりに、私たちに与えてくださった土地、乳と蜜の流れる地を祝福してください」(申命記 26:15)。

家族、住み慣れた家、食する糧を得る働き口など一切を喪失している状態でした。そんな孤児たちが味わう桃源郷をもたらせないだろうか、と始まったボランティア。はじめは何から手をつけたらいいのか。悲しみで目を泣きはらした孤児、夫をなくした独身女性、高齢の独居者にどのように声をかけるのか。お金もない。仲間もない。言葉も通じない。ないないづくめの壁が立ちはだかっていました。

2017年以降、筆者はアフリカのタンザニア、かつての奴隸貿易がなされていたアフリカ西海岸、人が足を踏み入れない地に踏み入っていました。寝袋で野宿しながらです。ポケットにはいつもわずかな小銭しかありません。

アフリカのタンザニアなどで、お出会いした村人ごとにあいさつしました。السلام عليكم (アラビア語 アッサラーム・アライクム (As-salaam alaikum)²⁹です。英語などができる子どもたちは白い歯を見せながら、初対面でも同じようにあいさつしてくれます。訪問していたミャンマーのマンダレーのボウオー村でもアッサラーム・アライクムと同じあいさつを交わしました。

ガーナのワで「カヨコ・チルドレン・ホーム」を建設しました。ガーナ³⁰(1957年独立)は世界でもカカオ生産で突出しています。しかし、児童労働、人身売買、子どもの権利が薄弱です³¹。日本のチョコレートの70パーセント以上はガーナからのカカオに依存しています³²。カカオの収穫、発酵、乾燥の工程に必要な労働力は子どもが担っています。いわゆる子どもの奴隸化です。子どもが重要な労働力をになっています。なぜアフリカのコンゴ民主共和国(旧ザイール)、スーダン、ナイジェリアなどは資源があっても民にとり「乳と蜜」の地にはほど遠いのでしょうか。現地に行ってみて、はじめてわかるようになりました。

それは幾世紀もの歴史の中で刻み付けられたトラウマ τραῦμα (心的外傷)³³です。

何がアフリカの子どもたちの手足に重い手枷、足枷、首枷をはめたのでしょうか。孤児の家をつくる真理契機になった真因を証します。

²⁷ 「AIでは解決できない今後の世界」(第8次シリア・ボランティア報告 神戸市政記者クラブ 2025年)。

²⁸ 20230910 “Miwa's report in Syria” Kobe Union Church <https://kayokofund.jp/2023/02/07//#toc13> 『NHK』(2023年9月26日午後5時半)。

²⁹ 「サラーム(سلام)」「平和」と、「アライクム(عليكم)」「あなたたちへ」。イスラーム教徒がひんぱんに交わすあいさつ。相手の平和を願う。「ワアライクム・サラーム(Wa alaikumsalam)」。「あなたにも平安がありますように」という意味になる。

³⁰ 旧アシャンティ王国(Ashanti kingdom)はガーナの国家形成の構成的中核地域。イスラーム教世界大会(ロンドン 2015年8月21-23日)で、岩村は、旧アシャンティ王国の王オトゥムフォ・オセイ・トゥツゥ2世(His Royal Highness Otumfuo Osei Tutu II 1950-)と共に講壇からメッセージ。<https://kisokobe.sub.jp/international/7795/>

³¹ 『チョコレートを食べたことがないカカオ農園の子どもにきみはチョコレートをあげるか?』(木下理仁 旬報社 2024年 20,23-29頁)。

³² ガーナからのカカオ豆輸入 76パーセント。財務省貿易統計 2024年4月9日。

³³ τραῦμα 拙論「現代キリスト教弁証学」(中央聖書神学校 2023年 春学期 22頁)。

ガーナのアシャンティ王国 Ashanti は 19 世紀、周辺の諸部族(アカン系、モダゴンメ、プロサなど)との紛争に勝利しました。火器があつたからです。ヨーロッパ(ポルトガル、スペイン、オランダ、イギリス、フランスなど)の「死の商人 Merchants of Death」と結び付きました。奴隸制度³⁴です。15 世紀から 19 世紀にかけて西アフリカから新世界アメリカへ奴隸貿易を繰り広げました。大西洋奴隸貿易(トランスアトランティック)です。およそ 1200 万～1500 万人の奴隸が輸出されました。奴隸船での運搬中(非人道的輸送)、到着後に死亡した奴隸を含めると 3000 万人³⁵に及びます。アメリカ大陸はヨーロッパに砂糖、綿花、コーヒーなどの農産物を輸出し産業資本を形成しました。初期資本主義³⁶です。同時に、植民地主義、人種差別、奴隸貿易が現代世界秩序に与えた影響を黙殺するわけにはいきません。新大陸プランテーションに従事する労働力不足を解消するため、アフリカから奴隸を持ち込みました。奴隸経済があったればこそ、英國の産業革命、資本主義の謳歌、近代の生活の豊かさがあったという視点です。孤児の家を建てるために訪問したタンザニア、ガーナ、モロッコなどでは孤児が劣悪な環境に捨ておかれています。なぜか。アフリカの途上国の発展が足踏み状態にとどまった状態を先進諸国の為政者は言います。政治家の偏向した世界観は偏狭です。今でも、ロス市議会の議長を務めるヌリー・マルティネス議員(49 歳)は、黒人男子を「リトルモンキー」と呼ぶ音声が漏洩しました³⁷。そんな人種差別発言はあまりにもアフリカの歴史が無知だからです。日本でも当時首相であった中曾根康弘[1918-2019] は「アメリカは黒人などがいて知的水準が低い」と発言しました³⁸。政治家の問題発言で責める資格は私たちにありません。人種が本質ではありません。どのような人でも、黒人に対するハム³⁹の子孫という教条主義的な蔑視、聖書解釈、体臭による差別をなんらか内包しているのです。アフリカに足を運んだことがある人ならば、気づくはずです。人類は忘れてはいけません。私たちの先祖、経済システム、富に対する飽くなき欲望が黒人たちを隣人から隔離したのです。抑圧、搾取、差別してきました。

アフリカの地を何度も訪問し、次のようにわかつてきました。長い奴隸制度が与えた影響。

就労現場から男性働き手の消滅により、「農」、「林」、「漁」の担い手がいない。若者が村落の空洞化、大家族の崩壊。結婚相手がない。地場産業が枯渇し、先進国製品の流入と依存。先進国の方針による不利な交易。軍事体制維持のため経済疲弊、教育中断、食料生産休業などは生産技術の停滞、人口減少、集落崩壊をもたらしました。

5 世紀近くの死の商人の独擅場は豊かなアフリカの大地を不毛の地へと変えました。だからこそ奴隸の生き血を吸って生きてきた西側諸国、資本主義、セトラー・コロニализム(居住植民地主義)は繁栄してきました⁴⁰。先進諸国は生きることにおぼつかない孤児たちのために寄り添う責任があります。義務感の発露を行動に点火するのではありません。何がわたしたちを動かすのでしょうか。ミャンマーのボランティアから考えて見ます。

³⁴ 1807 年 英国が奴隸貿易を廃止。1833 年 英国が奴隸制度を廃止し。1848 年 フランスが奴隸制度を廃止。実際には 20 世紀初頭。1863 年 米国黒人奴隸の解放を宣言。

³⁵ 『大英帝国の死の商人』(横井勝彦 講談社 1997 年 53 頁)。

³⁶ 近代資本主義の源流は宗教改革者マルティン・ルター[1483-1546]による。「天職」(独 Beruf, ギリシャ語 κληρος 召命 英語 calling <「務め」ヘブライ語 כַּל (シラ 43:10)をルターは「割り当てられた労働」と解釈)。世俗の職業労働こそ隣人愛の外的な現れ。『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(マックス・ウェーバー 大塚久雄訳 岩波文庫 2004 年 102-103,110 頁)。「今与えられている職業に誠実に努めること」をカルヴァニズムは 16 世紀に定着させた。一方、『資本主義と奴隸制』(エリック・ウィリアムズ 中山毅訳 ちくま学芸文庫 2024 年 2009-223 頁)によると、資本主義は奴隸貿易により、萌芽し発達したとする。

³⁷ 『CNN』(2022 年 10 月 11 日付)。

³⁸ 「失言、放言外交の研究」藤尾発言、中曾根発言を中心として (池井優 慶應義塾大学法學研究会 1995 年 49 頁)。中曾根は筆者の恩師末次一郎[1922-2001]の葬儀委員長。末次は現 JICA [国際協力機構]、青年海外協力隊の創設(国際協力機構青年海外協力隊事務局編 2006 年)、日本青年奉仕協会(JAVA)を創設。拙論「現代キリスト教弁証学」(同 2023 年 春学期 7 頁)。

³⁹ ハムの子どもカナンについて、「カナンは呪われ、兄弟の僕の僕となるように」(創世記 9:25)。『産経新聞』(2016 年 12 月 4 日)。一方、黒人であるエチオピア人がキリスト教界の一翼を担っている(使徒 8 章)故に、差別を助長することは考えられないと反論するキリスト者もいる。

⁴⁰ 『歴史は実験できるのか』(ネイサン・ナン 小坂恵里訳 慶應義塾大学出版会 2018 年 145-184 頁)。

b.抑圧されている人々と共生する

第2次ミャンマーのために、「カヨ子基金」の村上裕隆本部長は「アルファ米」を神戸の事務所で梱包してくれました。米だけで、約35kgです。飛行機のタラップを乗り降りする際、破損しないようにと、気遣ってもらいました。ところが、閑空の航空会社から梱包し直すようにと指示がありました。



ミャンマー国ヤンゴン空港に降り立つ。
2025年6月14日(土)午前10時35分。



ポウォー村への入口にあるタウンタマ湖

第1次ミャンマーボランティアで共にボランティアに仕えてくださった若者たちが迎えに来てくださいました。ミンタイクウーさん、トゥリッダさんたちと抱擁し、再会を喜びました。震災から二か月経たマンダレーのポウォー村に再び訪問。日曜日午前7時半でした。朝から村人は食料の支給、飼育している鶏、作物などを人が行き交う場で販売したりするかけ声で喧騒でした。一緒に、ボランティアした若者たちみんなとも顔合わせできました。地震で家が倒壊したため野原で生活していた被災者たちも雨をしのぐため、部分的に修理をして自宅にほとんどが戻っていました。道はぬかるんでいます。狭い通りは牛、馬、羊などがいるために車は通行できません。



村民たちは自分たちの家を生活できるように復旧。
ポウォー村 2025年6月15日。



食料などの支給を求めるミャンマーの村民
佐々木美和 2025年6月15日 早朝。

軍事政権下抑圧されているポウォー村は 2021 年 2 月 1 日に国軍によるクーデターの影響を受け、以降、村民の意を反映しない国軍勅令による村長の選出が行われるよう変貌していました。

迎えに来てくださったトゥリッダさんの父親ウインゾーさん(58 歳)は 2008 年、村民選挙により元村長でした。母親のマンニウェイさん(50 歳)と、小さな食堂をしながら、村民に仕えておられています。在任中に、隣村と結ぶ橋を造ったり、村に電気がともるように努力されました。おかげで午前と午後 4 時間のみ電気が使えるので村民は感謝しておられます。40 分ほどかかるマンダレーの中心街では、発電機を用いて商売をするのが当たり前です。電気不足です。日本では当たり前のテレビは楽しめません。LINE、フェイスブックなどは日本とやりとりはできません。

ミャンマーはシリアの生活水準とよく似ています。役人の月収は約 50 ドルです。日本円にすると 6 千円ほどです。アジアの最貧国のひとつです。ネパール、アフガニスタンと同様、質素な生活を余儀なくされています。村長といえども庶民より収入はよいとはいえる、ぜいたくはできません。地域のリーダー、たとえば役人は、賄賂、不正、詐欺も珍しくないと耳にしました。おしなべてミャンマー人は律儀で、柔軟です。とりわけ 90 パーセントを占める仏教、約 4 パーセントのイスラーム教徒たちなど、敬虔な宗教者が多い民族です。ゆえに住んでみたくなる魅力的な国です。

しかし、軍事政権のため軍人の判断が法律になります。行政の上部構造は軍隊の支配と密接に結びついでいます。

過去に 3 回クーデターがあり、国外に逃亡した人たちも決して少なくありません。2021 年 2 月 1 日のクーデターは規模が大きく、軍事国家⁴¹に変貌しました。戦火を逃れた国内避難民は 320 万人です。しかし、2023 年 10 月の 3 つの少数民族武装勢力による一斉蜂起は国軍を劣勢に追い詰めました⁴²。なぜなら国土の 3 分の一しか国軍は統治できていないからです。国軍は兵員不足です。そこで昨年 2024 年 2 月に徴兵制を導入しました。

私たちが村の孤児を世話をすることに協力してくれるミンタイクウーさん(20 歳)は自宅で私たちに成績表を見せてくれました。オール A です。学力は優秀であり、村民たちも一目置いています。彼は私たちの帰国を待って、2 日後、マレーシアの大学に留学しました。だれからも支援のない就労しながらの自費留学です。ミンタイクウーさんのような若者たちの大量出国の話はあちらこちらで聞きました。彼は、第 1 次訪問の別れ際にガチョウの卵をくださいました。今回、はじめてお会いした母親ゾーンウェジンタイクさん(40 歳)は、父親 ゾーミンナインさん(49 歳)とともにポウォー村の出身です。母親は高校を卒業してすぐに父親と結婚しました。英語も理解できる非常に聰明



ポウォー村のイスラーム教徒の小学校招かれる。アラビア語の『聖クルアーン』(コーラン)に幼い時から楽しく親しんでいる。

⁴¹ 2021 年、2 万 8000 人以上が拘束され、ウンサンスーー氏※を含む 2 万 1000 人以上が、現在、ネピドーに拘束されたまま。父親は「ビルマ建国の父」として知られるウンサン将軍[1915-1947]。1941 年に日本軍は侵攻。42-45 年にビルマを占領。1989 年、国名を「ビルマ(Burma)」から変更。理由は 350 の民族がいる中で、ビルマは特定の民族名だから。クーデターはスーチー派は排除が理由。「法の支配」(Rule of Law)ではなく、「法を使った支配」(Rule by Law)。『ミャンマー現代史』(中西嘉宏 岩波新書 2022 年 172 頁)。

※スーチー [1945 生 Aung San Suu Kyi 2016-2021] 1991 年ノーベル平和賞受賞。国連の国際司法裁判所(ICJ)に出廷。同国軍が少数民族ロヒンギャにジェノサイドの事実を否定。それを契機に欧米はミャンマー支援を打ち切った。1 カ国を除いて。

⁴² 通算で 27 年ミャンマーに駐在した外交官で、去年 9 月まで日本大使を務めた丸山市郎氏は、内戦の状況について、次のように述べています。「ミャンマーの歴史の中で、国軍が武装少数民族勢力の戦いで、これほど劣勢になるということは、一回もなかったこと。果たして国軍が全てを敵に回した、国民の支持も得られない中で、どこまで存続できるのか、これはもう誰も予測ができないステージに入っているのではないか」『NHK』(2025 年 2 月 3 日)。解説委員藤下超氏は、第 1 次インドネシア・ボランティア(2018 年 9 月 30 日-10 月 5 日)の最終日、パル飛行場でお会いした。

な方です。才色兼備の女性です。4年前に夫ゾーミンナインさんは国軍に拘束されました。国に歯向かう活動家であるという理由です。友人1名と共に連行されました。友人は1週間の拘留後に釈放されましたが、ゾーミンナインさんだけは1週間の拘留後、投獄されました。収監後は、1カ月に1度、30分間のみの面会が許されています。ただしガラス越しです。受話器を介した面談です。食べ物は十分ではないとのことです。体力をつけるために肉などを差し入れします。仏教国ではありながら、仏教徒も皆、肉も食べます。刑務所内でできることは限られています。情報統制されているテレビ放映のみです。『コーラン』を心に宿し、日々をやり過ごしておられると奥さまから聞きました。そのため眼鏡も差し入れたそうです。出所後に技術を身に付けるためでしょうか、コーヒーバッグなど小物をつくる家族を喜ばせておられました。ゾーミンナインさんは本来のご自分の自己自身を喪失して、いわゆる「ひと」das Man⁴³⁾に頽落しておられません。権力に屈服したのではなく、「無の立場」の力に思えました。「弱いときにこそ強いからです」(IIコリント12:10)。軍政下の権力で「無」を自覚できるのは勝者の証しです。その徴がおみやげにと持たせてくださった作品が語っています⁴⁴。釈放時期は、10年後だそうです。

ミンタイクウーさん、その3人の妹、祖母のゾーテインピさん(61歳)も不憫な娘や孫たちと共にそんな重刑の悲しみを分かち合っています。幼い8歳のピューさんもまっすぐに前を向いている家族の精神に打たれました。日本からの私たちもゾーミンナインさんにたち共苦しました。「自分も一緒に捕らえられているつもりで、捕らわれている人たちを思いやり、また、自分も肉体を持っているのですから、虐げられている人たちを思いやりなさい」(ヘブライ13:3)。

イスラーム教徒もキリスト教徒も聖書を信じています。次のように書かれています。「先にあつたことを思い起こすな。昔のことを考えるな。見よ、私は新しいことを行う。今や、それは起ころうとしている。あなたがたはそれを知らないのか。確かに、私は荒れ野に道を荒れ地に川を置く」。(イザ43:18,19)。嘆きから讃美、希望、力に変わるので。

ミンタイクウーさんの家族はがちようを200匹以上飼い、その卵によって暮らしが支えられています。ゾーミンナインさんが投獄される前から営まれている家業です。今では酷暑の中、ゾーンウェジンタイクさんがひとりで飼育、販売、がちようが病気にならないようにたくましく働いておられます。ポウォーは工場などありません。村民は多くは「農」に従事しています。



ボランティアリーダー ウーラーーさん 第1次で出会って以来、意気投合。二人の写真は第一面に掲載される(『クリスチヤン新聞』(2025年4月3日付)



鶏で生計を営むウンパインさん(35歳) 6月17日

⁴³ マルティン・ハイデッガー[1889-1976]『時間と空間』上巻(ハイデッガー 細谷貞雄・亀井裕・船橋弘訳 理想社 1963年 291-298頁)。自己の存在を忘却した状態である「頽落と捉える。一方、自己の存在を自覚し、死を覚悟した上で、自己の可能性に向き合う状態を「本来的な気遣い」と呼ぶ。頽落から脱却し、本来の自己に立ち返ることは、より充実した存在へと向かうための重要なステップ。

⁴⁴ 宗教は、人間が苦難のときも虚無主義に陥らずに、その生に意義を見出して生きることを可能にする。“Does God Exist?”Hans Kung Edward Quinn, Doubleday & Company, Inc, New York, 1980 S.628-631。

c. 廃墟の破れ口から立ち直る

ポウオ一村の住民で靴をはいている人は見かけません。食事のとき、スプーンなどなくても手で食べます。男性も一年中、「パソ」と呼ばれる「ロンジー」、伝統衣装のスカートをはいておられます。機能性、快適性、通気性に優れています。40度を超える暑さですが、エアコンはありません。しかし、困った人がいれば助け合います。軍事政権のこわいイメージと、そこに暮らす人々の温かさのギャップが大きい国です。ちなみに役人、警官、政治家にも滞在中お会いしました。

行政、司法がない国と言えるかもしれません。「国の司法、・立法・行政の権限が国軍総司令官に委譲された」⁴⁵のです。

今回、地震で夫を失った世話を好きな女性たちに集まってもらいました。「カヨコチルドレンホーム」の孤児たちを自ら進んで面倒をみてくださる方が申し出ないか尋ねてみました。生きていくのが精いっぱい他人の子ども数人が大人になるまで衣食、教育という段になると即答できる方はいらっしゃいませんでした。そこで、私たちはふたりで、村のすみずみまで、戸別訪問することにしました。



夫を地震で失ったポウオ一村の女性たち。6月17日。

汗をかきながら、一軒ずつ「地震の時はだいじょうぶでしたか」、「けがしている子どもさんとかいませんか」、「生活は元に戻りましたか」など。「ウチに寄っていいき、冷たいものでもどうぞ」と親切な方が声をかけてくださったりします。被災して、なにもかも失ってしまったにもかかわらず、日本の被災地と同じやさしさがあります。ヤンゴンの都会でも店の前を通りかかっただけなのに食べやすいように切ったマンゴをくださった店主もおられました。

日本のODA⁴⁶からの支援物資を着服するミャンマー一人マフィアもいると聞きました。複雑な心境です。



行く先々でみなさん集まっています。男の子も皆ほっぺが白い。ミャンマーで、およそ2千年続く、日焼け止め。値段は1千チャット(約80円)~1万チャット。今でも多くの家庭にタナカの木片と、それをこするための石板がある。『朝日新聞』(2020年9月28日)。

⁴⁵ 『ミャンマー政変』(北川茂史 筑摩書房 2022年 17頁)。

⁴⁶ ODA(政府開発援助 Official Development Assistance 二国間援助、国際機関への出資・拠出[多国間援助])により、ODAによりJICA(独立行政法人国際協力機構 Japan International Cooperation Agency)が実施する技術協力、有償資金協力、無償資金協力事業。JICAは末次一郎[1922-2001]によって設立。岩村の恩師末次によれば、当時の国内では「キリスト教のアメリカではできても、日本の青年にはボランティア活動は無理」(国際協力事業団 1985年 17頁)。拙論「キリスト教とボランティア道」—水平の<運動>から、垂直の<活動>に—(宗援連 東京大学 2016年 14,16-23頁)。

歩いていると、イスラーム教神学校にもさしかかりました。飛び込みです。イスラーム教徒に徹します。



イスラーム神学生(16歳～23歳)の前ではイスラーム帽、ユダヤ教ではキッパーをかぶり、岩村はメッセージを語る 2025年6月18日。

そんな不謹慎な、キリスト教会の牧師にあるまじきことと、十戒の「あなたには、私をおいてほかに神々があつてはならない」(出エジプト 20:3)を忘れたのか、顔を洗ってこいとお叱りなさいますか。

ここミャンマーの植民地主義的圧政にあってイスラーム教徒は抑圧されています。かつてアフリカで奴隸貿易を行っていた負の十字架を背負っているキリスト教がどんな「人間らしさ」⁴⁷を説けるのでしょうか。否、できません。現在もロシア・ウクライナ戦争、イスラエル・ガザ戦争に関与するアメリカ、NATO⁴⁸諸国はキリスト教圏です。人間らしさはありません。

パウロに申し訳ありませんが、宣教のためではありません。「ユダヤ人には、ユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を得るためです。律法の下にある人には、私自身はそうではありませんが、律法の下にある人のようになりました。律法の下にある人を得るためです」(Iコリント 9:20)。

いわゆるキリスト教国、アメリカ、イギリス、フランス、スペイン、オランダに住んでいる人々はイエス・キリストを神の御子と信じているでしょう。「口でイエスは主であると告白し、…… 実に、人は心で信じて義とされ、口で告白して救われるのです」(ローマ 10:9,10)。しかし、ミャンマー、トルコ、北朝鮮ではイエスを救い主だと知りません。しかし、イエスの愛のわざを実践しようとしている人々がいます。いったいどちらがイエスの教えに忠実と言えるでしょうか⁴⁹。

ハンス・キュングは述べます。世界倫理とは、ドイツ語の「倫理(Ethik)」ではなく「エース⁵⁰(風俗Ethos)である、と。したがって、被災から立ち上がりろうとしているポウォー村には宗教対話に「真理へ近づくさまざまな実験」⁵¹の成果である個人の自由がありました。

ここポウォー村、インドネシア、モロッコ、トルコ、シリア、エジプトなどでも現地では『コーラン』から対話するのが常です。ボランティア道の3本柱のひとつ「対話性」とは相手と共同歩調をとることです。

⁴⁷ 各宗教は、固有の絶対的なものを各自の信仰において追究し、さらに自己批判の基準とする。また、固有なもののが追究は、主義がより人間らしくなることを本質的に含んでいる。しかし、この基準を他宗教に直接用いて批判することはない。

⁴⁸ 拙論「宗教帝国のエクスーシアが世界を滅ぼす—第1次ウクライナ・ボランティア報告—」(神戸国際支縁機構 2022年 9頁)。

⁴⁹ 『マルティン・ニーメラー』(ディートマール シュミット 兩宮栄一訳 新教出版社 1996年 218-219頁)。『ナチへの抵抗』(W.ニーメラー 兩宮栄一訳 日本基督教団出版局 1978年 282頁)。「たとえ律法を持たない異邦人も、律法の命じるところを行えば、律法を持たなくとも、自分自身が律法なのです」(ローマ 2:14)『『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。天におられる私の父の御心を行う者が入るのである』(マタイ 7:21)。

⁵⁰ 『ハンス・キュンクのエースとしての世界倫理についての一考察：世俗社会における宗教間対話の展開の一例として』(藤本憲正『基督研究』第78巻 2016年 71頁)。『社会的エースと社会倫理』(村田充八 晃洋書房 2005年 6-8頁)。

⁵¹ 上智大学国際教養学部の村上辰雄准教授は宗教学と植民地主義の構造の関連を指摘している。『宗教と宗教学のあいだ』(リチャード・ガードナー&村上辰雄 上智大学出版 2015年 164-185頁)。『ガーンティー自叙伝—真理へと近づくさまざまな実験』全二巻 (M.K ガンディー 田中敏雄訳 平凡社 2000年)。

マンダレー市の中心街でも孤児を探しました。すると子どもたち、それも少女たちだけで、托鉢をしています。お人形さんみたいです。近寄ってみると、笑顔で暗誦した読経を大きな声で唱えてくださいました。さすが仏教国です。地震で倒壊した有名な最大の仏舎利、寺院、仏塔は震災前には途切れることのない参拝者、観光客でいっぱいだったと仏教徒ワインナインさん(66歳)から教えていただきました。今は見る影もなく変貌した寺院などの復旧のために托鉢姿があちらこちらで見かけられます。ポウォ一村だけでなく、宗教は人々の生きる指針です。愛を具現化する重要なツールになっています。



マンダレー市街地のいたるところで托鉢をする
幼い尼僧たち。2025年6月15日。



ミャンマー国で一番大きいマハ・ムニ・パゴダ
倒壊前は金箔で観光客、参拝客で常時いっぱい
いだつた。中には4ドルの座仏もあった。

ミャンマーの僧侶は生涯独身です。朝5時に起床し、読経後、朝食をいただき、昼過ぎに軽い寺院の食物を口にしたら、就寝するまで一切食べ物は口にされません。「少欲知足(欲を少なくして足ることを知る)」(『仏遺教経』)⁵²です。民衆から尊崇をもって慕われています。あの巨大地震から復旧、復興、再建する力は、工学、建築工法、都市計画より、スピリチュアリティであると教えられます。頼りなく、望みなく、心細い人は幸せです。神さまの懐にシッカリと抱かれるのはその人たちだ。野辺の送りに泣く人は幸せだ。その人たちはやさしく慰めていただける。意気地なしの甲斐性なしは幸せだ。その人たちは神さまからすばらしい跡式(遺産)をいただく」(新約聖書 マタイ福音書 5章3節 山浦玄嗣訳 2012年)。

軍事政権から支援されません。制度によって「小さくされた」貧しい民は幸せです。



マハ・ムニ・パゴダの和やかな僧侶にあいさつ後、隣接の住宅地帯。立ち入り禁止。

⁵² “お金よりも大事なことがあります。「少欲知足」です。「我らは何をも携へて世に來らず、また何をも携へて世を去ること能はざればなり。ただ衣食あれば足れりとせん」(聖書) 『中外日報』(岩村義雄 2013年5月21日付)。

<結論>

「頼りなく、望みなく、心細い人は幸せだ」。ポウォー村の全員、生まれてこの方、経験したことがない未曾有の大地震。たいせつな家族、友、近隣の人々との別離は耐え難いつらさです。死体の安置は、ネパール、パル、石巻など数えられないほど目撃してきました。残された遺族、市民たちの2011年の1回目の追悼集会で、神戸国際支縁機構からの長い電報が亀山紘前市長によって朗読されました。渡波在住の佐藤金一郎さんが「石巻市民は涙を流していたよ」と神戸に連絡をくださいました。

3月28日、40度を超える暑さ、長年連れ添った肉親の日常の会話を奪いました。言葉が声にならないません。ビルマ語は話せません。音声ではなく、顔などの表情で、「死は終わりではない」と伝えるもどかしい沈黙。暗い闇の充満、懐中電灯がまぶしい、光が心のヒダにまで届くとは思ってもいませんでした。あの長い夜から2ヶ月。こちらがお会いしたかどうか覚えていない村民たちと再会しています。死後、あの世で出会う人が妻カヨ子なのか、妹有子、それともよくいじめたためうらんで死んでいった弟の鉄ちゃんか、瞬時にわからない瀬があります。同様に、顔がすれちがっても震災直後に野宿していた村民との機縁が直結しないのです。

お互い笑顔ですが、目がめだかのように泳いでいます。しかし、再会できて幸せです。

最高潮の瞬間が訪れました。がれきを踏んでころばないように細い迷路を歩いて歩いて、やっと孤児たちを世話してくださるシングルマザーにたどり着きました。ティンティンモンさん(41歳)です。3人の娘さんを育てる明るい女性です。写真奥に「カヨコ・チルドレン・ホーム」を建設します。



2025-06-17 16:48:43

ティンティンモンさんと娘ピヤエピョマウンマウン(10歳)、マイミヤミヤモン(8歳) 6月18日。

ここまで事が運ぶには、多くの方たちの応援がありました。ポウォーの被災者に救援金57万3,200円を手渡すことができました。生きていくのがおぼつかないご家庭に日本の心温かい支援がありました。ミャンマーは、2008年5月25日に、軍事政権がサイクロンの被害に対して、人的援助を拒む報道をお聞きになり、軍事を掌握する側のかたくなさにあきれかえられたと思います。

2008年5月25日も、民を虐げる強権には驚くばかりです。神戸国際支縁機構の小さな働きの出発はミャンマーと縁があります。安全を求め逃げてきたミャンマ一人の難民申請のために申請が認められるまで伴走しました。当時も日本政府は国際的には難民を受け入れると言ひながら、実際には、固く戸口を閉ざしています。ミャンマ一人空野真雲さん⁵³(旧姓 マウンマウン 57歳)は難民ワクに認められず強制送還されたら、軍事政権によって殺されてしまうのです。しかし、不法入国という制度を盾に法務省移民局はなかなか難民として認めてくれなくて、欧米では年間2,3万人が認められるのに、日本では約10人ほどです。空野さんが認められるにはたいへんな労苦が必要でした。神戸バイブル・ハウスで難民支援の集いをしたり、署名活動などをしてやっと認可がおりたのです。

ミャンマー訪問回数はたった2回です。すべてがわかったわけではありません。国軍のクーデター以降、鎖国のような状態です。内紛が絶えません。そんなミャンマーに技術・経済・インフラ支援を日本だけが行っています。JICA, IBICと提携して二国間交流がなされています。川崎重工業(軍事・防衛機器、武器・装備関連)、神戸製鋼所、三菱重工業、ティラワSEZ(三菱商事、住友商事)以外にも日本から支援されています⁵⁴。

日本企業はJICAなど「支援」を看板にして、ミャンマー軍⁵⁵政を支える経済システムを構築しています。「開発」という大義名分にミャンマー国状が安定し、購買力が高まるプロジェクトです。日本経済へ還元されるビジョンを実現させる経済帝国主義です。いわゆるアフリカなどの植民地政策の21世紀版です。

軍港、鉄道、高速ハイウェイなど民間が利用できません。軍隊関係者が活用しています。工事着工に際して収益構造、賄賂が軍高官に流れています。死の商人の暗躍があるのは世の常です。相互理解、相互扶助の関係を築くのは民間の災害支援を行なうボランティアが突破口になります。信頼関係が構築され、差別、抑圧がない夜明けを祈りたい。

「驕れる人も久しうからず、ただ春の夜の夢のごとし」⁵⁶ Pride goes before a fall. ロヒンギヤ民族を差別、抑圧、非人道的なジェノサイド[集団殺害]をした政策を速やかに停止されるように祈りたい。「破滅に先立つのは驕り つまずきに先立つのは高慢な靈」(箴言 16:18)。ミャンマーの民衆の心から離れている軍事政権は長続きしないでしょう。そのとき、完全に軍部を切り捨ててしまうのは賢明ではありません。災害などの時に力を發揮してもらいたいものです。新しいミャンマーのために一翼を担う花道を想像しています。

説教原稿を、神戸国際支縁機構の村田充八理事に校正していただきました。また不明瞭な箇所について訂正していただきました村上裕隆氏、翻訳家徳留由美氏にも感謝します。

⁵³ 季刊誌『支縁』No.51 (空野真雲 2025年 編集後記 4頁)。

⁵⁴ 福田組(Fujita)、東京建物、豊田通商、上組、JOIN(日本海外インフラ社)、NEXI(日本輸出入銀行)、キリンなど。ウイキペディアから。ミャンマー軍、日本企業から機器の供給受け武器を製造=国連報告書。『BBC』(2023年1月17日)。

⁵⁵ 普通、軍とは外国の侵略から自国と国民を護るために存在しています。しかし、ミャンマー国軍は鎖国の中で外国軍と戦闘を交えたことがありません。戦う相手はすべて自国民です。少数民族、抵抗する市民、ジャーナリストに銃を向ける国内鎮圧ばかりです。『ミャンマー危機』(永杉豊 扶桑社 2021年 112頁)。日本人ジャーナリスト長井健司さん[1957-2007](APF 通信社 Asia Press Front, 略称 APF)は、ヤンゴンで軍事政権に対する大規模な抗議デモの取材中、至近距離から銃撃された。

⁵⁶ 平安時代末期の日本の武将平清盛[たいらのきよもり 1118-1181]の義弟である平時忠[1130-1189]が「平家にあらずんば人に非ず」と発言。ロヒンギヤ民族(イスラーム教徒)もミャンマーでは人間としては認められていない。ネパールのダリット層と同じ。